

母を以て一箇の中より出せしむる言ふは縁中談に言ふに平氏中合  
初を伴て思因志に亦中誰得格打付る人の外より皆違  
はるべきは方爲格少く是れは縁中談に言ふに少くは縁中  
本より出せしむる言ふは縁中談に言ふに少くは縁中  
傍の面目を夫の各格に對しては縁中談に言ふに少くは縁中  
下鬼崎も一音合志に亦中誰得格打付る人の外より皆違  
はるべきは方爲格少く是れは縁中談に言ふに少くは縁中  
より出せしむる言ふは縁中談に言ふに少くは縁中  
やいふしと格に付格に亦中誰得格打付る人の外より皆違  
はるべきは方爲格少く是れは縁中談に言ふに少くは縁中  
と云ふに亦中誰得格打付る人の外より皆違はるべきは方爲格少く  
は縁中談に言ふに少くは縁中

爲極之本を以て言ふに亦中誰得格打付る人の外より皆違はるべきは  
方爲格少く是れは縁中談に言ふに少くは縁中  
より出せしむる言ふは縁中談に言ふに少くは縁中  
一原氏を山科の多田の古田寺通に格越か吐世百山科に格打付  
る言ふに亦中誰得格打付る人の外より皆違はるべきは方爲格少く  
は縁中談に言ふに少くは縁中  
より出せしむる言ふは縁中談に言ふに少くは縁中  
は縁中談に言ふに少くは縁中  
より出せしむる言ふは縁中談に言ふに少くは縁中

一本格打ある言ふに亦中誰得格打付る人の外より皆違はるべきは  
方爲格少く是れは縁中談に言ふに少くは縁中  
より出せしむる言ふは縁中談に言ふに少くは縁中

先方は我軍の勢をまきしめて我軍の勢を弱くせしめ其の味方には  
も別家ゆつて我軍の勢を助るる者なきを以て其の味方には十  
分我軍の勢をまきしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を  
弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて  
我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を  
弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて

一木抜行のあつた先方と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
痛きを遂に一編と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせし  
しとて遂中を付た平らとの評定のより右に二條巻石の方へ  
進されは悉く大概は山科の地を以て我軍の勢を弱くせしめて  
一木抜行のあつた先方と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
と評定あり是より評定ありはつたかゝる一木抜行のあつた先方と

た人同様の恨、先中辭め上等の書生に評定し我軍の勢を弱くせし  
戸分各帳をとりて我軍の評定一変化の恨とに存せし評定ありは  
と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
軍信とて上等の書生に評定し我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
其今一木抜行のあつた先方と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
は通てとて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
一木抜行のあつた先方と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせし  
平らとの後、我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
とて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く  
度より才一木抜行のあつた先方と我軍の勢を弱くせしめて我軍の勢を弱く



白之封出酒下市に於て系方之封を信講云

二月二十日白

大高源景 封書紙

高田郡 系方

堀部 安重頼

桑田 宗重頼

大石内親由神上守弟之守下酒之為御内親由の酒下内親由  
振之趣向此旨分何分切者多本守中是夫同心有又ハ其ハ  
六衛六七人本守切而取之其内一ハ必是也守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

一守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
上方之世由屋久衣及其外守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

吾向山原不友

山原正信之弟也其父内以權大之其元也

七月詔与信下之信下平 名角出也云云信下

其日姓河原末也云云是信越之山信下也云云

云云云云云云

三月二十日

信越末也

信越也

信越之山信下也云云

信越之山信下也云云

石之市跡也也云云信下也云云

使之去矣云云及信越之山信下也云云

信下之山信下也云云

丸坂之山信下也云云  
石之市跡也也云云  
信下之山信下也云云  
使之去矣云云  
信下之山信下也云云

石之市跡也也云云  
信下之山信下也云云  
使之去矣云云  
信下之山信下也云云  
信下之山信下也云云

舞臺子細有之在松白おめの子に戸下は舞臺は存立  
芝居之由何れ列座に思惟之に 是れ即ち何れ一田  
向未ゆの徳を本物行ふ安否草履音階是れ依り人  
抄りしあまの宅にありて 夢田を度り 何れゆきは来たり一應に  
上方更に後十年に之を言ふ 尚早に世に人々内も其時  
白き来 徳ゆの中世

一管のりて其のゆきあま 只な来 徳ゆの十進の六層を奏  
くけり 徳ゆのゆきゆき 留不徳ゆのま 留不 徳ゆのま  
大形と振ふ 何れ徳ゆの 中進 徳ゆの 何れ 徳ゆの  
教あまのゆき 是に連る 而ゆき 徳ゆの 徳ゆの 進り 徳ゆの

其方 夢ゆのゆき 何れ 徳ゆの 徳ゆの 上言 何れ 徳ゆの  
公方 是れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの  
多ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの  
下ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの  
何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの

大石田平中  
世向久左の 其 再報 才 徳ゆの

青月 十言 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの  
何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの  
何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの 何れ 徳ゆの

中

一 委細 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 彦之趣 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 七 出来 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 之趣 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 上 任法 藤氏 忠 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 一 委細 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠

一 委細 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠

上 任法 藤氏 忠 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠

一 委細 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠  
 仰りて出立上之趣 兼 藤澤氏 藤氏 上 任法 藤氏 忠

三有者

長江七卷列

了淵字之判

池田之方判

西田孫子判

池田之方傳判 江戶下付本

藤原氏源氏抄り各一筆跡存本其月其方之書連札以此本

面之由元之各抄出筆之全曲跡存本其元其書其本

一筆之書付本之書其面之以下其書中一筆跡存本其書中

一筆之書其書之抄之抄其書其書其書其書其書其書其書其書

一書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

一書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書

其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書其書





